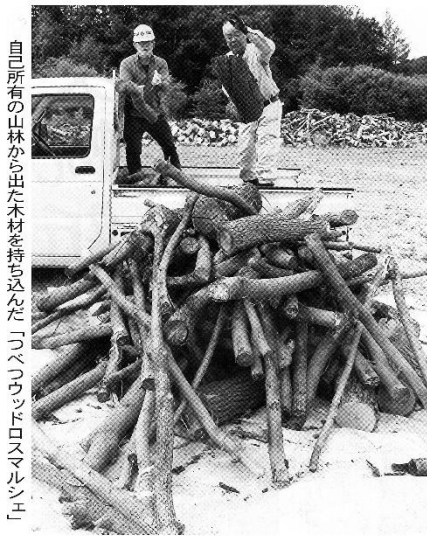


「つべつウッドロスマルシェ」模擬開催

美幌新聞 2022 (令和4) 年 8 月 30 日 (火)



自己所有の山林から出た木材を持ち込んだ「つべつウッドロスマルシェ」

不要な木材を買い取り

津別 ウッドロスマルシェを模擬開催

【津別】津別町森林バイオマス利用推進協議会は、来春稼働する木質バイオマスセンター機能の一つとして、木材買い取り事業の「つべつウッドロスマルシェ」を計画している。27日には町本岐の中間土場(旧本岐中グラウンド)で「模擬マルシェ」が開かれ、町民らが不要な木材や端材などを持ち込んだ。

ウッドロスマルシェは、事業の一環、地域資源のは、林野庁の「地域内工 木質バイオマスを活用するシステム」モデル構築することで森林資源、エネ

ルギ、経済の持続的な循環を目指す津別が2019年から調査地域に

指定された。町は同センター稼働に向け、原料の持続的・安定的確保を図ることで①森林所有者への利益還元 ②未利用材の有効活用と収集する仕組みづくりの構築を目的に、20年から木材の受け入れ(買い取り)事業として「ウッドロスマルシェ」を開始した。持ち込まれる木材は主に町有林のカラマツで、自己所有の山林や農地周辺で樹木伐採後に出る端材(林地残材)や、住宅の廃木をせん定した際に切り落とされた枝など。家具など加工された木材は対象外となる。中間土場の旧本岐中グラウンドには、これまでの2年間で買い取った木材300立方メートル(木材は体積で計測)が貯木されている。

ウッドロスマルシェは、持ち込まれた木材の重量を計測し、合計10

0キログラム未満は500円、100キログラム以上は2千円で買い取る(協力をというシステム)。この日は3件、1550キログラムの木材が持ち込まれた。自己所有の山林から出た端材を持ち込んだ町民の中橋正典さん(58)は「広葉樹は自宅薪として使っているが、カラマツは使い道が少なかつた。買い取ってもらえるのならありがたい」と話していた。町は「伐採後の木材を山に残すとススキの果になるなど問題が生じる。山林の環境保全の観点からもウッドロスマルシェの周知・継続を目指したい」としている。